

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年4月19日に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果を報告します。

報告内容

- 1 調査の実施状況
- 2 教科に関する調査の結果
 - ・小学校国語、算数、理科
 - ・中学校国語、数学、理科
- 3 質問紙調査（生活や経験について）の結果
- 4 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係から
- 5 結果をもとにした安城市の傾向と今後の取り組み

1 調査の実施状況

調査実施日	令和4年4月19日
調査内容	教科に対する調査【小学校】国語、算数、理科 【中学校】国語、数学、理科 質問紙調査【小学校】【中学校】
調査対象	小学校21校6年、中学校8校3年
調査状況	小学校 国語1, 790名、算数1, 791名、理科1, 794名 中学校 国語1, 757名、数学1, 759名、理科1, 762名

2 教科に関する調査の結果

各教科それぞれの領域について、全国の平均正答率と比較をし、

「◎：たいへんよくできている」

「○：よくできている」

「□：おおむねできている」

「△：やや劣っている」

「▲：努力を要する」の5段階で示した。（以下の例参照）

（例）

教科の総合判定

A教科 「○ よくできている」

学習指導要領の内容	B 書くこと	□
評価の観点	知識及び技能	○

この場合、A教科において、総合判定では全国比で「○ よくできている」という結果であると示している。また、「B 書くこと」に関しては、全国比で□「おおむねできている」。「知識及び技能」については、全国比で○「よくできている」という結果であると示している。

<小学校6年生（教科に関する調査結果）>

国語全体 □おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	▲
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	□
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	□
		B 書くこと	□
C 読むこと		□	
評価の観点	知識・技能	△	
	思考・判断・表現	□	
問題形式	選択式	□	
	短答式	▲	
	記述式	□	

問題番号	出題の趣旨	結果
1ー	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	△
2ー (1)	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える	▲
3ー	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える	△
3三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（録画）	▲
3三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（反省）	▲
3三ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（親しむ）	▲

算数全体 □おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導要領の領域		A 数と計算	□
		B 図形	□
		C 変化と関係	□
		D データの活用	□
評価の観点	知識・技能	□	
	思考・判断・表現	□	
問題形式	選択式	□	
	短答式	□	
	記述式	□	

問題番号	出題の趣旨	結果
1(2)	二つの数の最小公倍数を求めることができる	▲
1(3)	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	○
2(1)	百分率で表された割合を分数で表すことができる	▲
2(2)	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	△
2(3)	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	△
2(4)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	○

理科全体 △やや劣っている

分類		区分	結果
学習指導要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	□
		「粒子」を柱とする領域	▲
	B区分	「生命」を柱とする領域	△
		「地球」を柱とする領域	□
評価の観点		知識・技能	▲
		思考・判断・表現	□
問題形式		選択式	△
		短答式	▲
		記述式	△

問題番号	出題の趣旨	結果
1(2)	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	▲
1(3)	昆虫の体のつくりを理解している	▲
1(4)	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	▲
2(1)	メスシリンダーという器具を理解している	▲
2(2)	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	▲
2(4)	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	▲
4(2)	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	▲
4(4)	水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	○

<中学校3年生（教科に関する調査結果）>

国語全体 □おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	□
		(2) 情報の扱い方に関する事項	□
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	□
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	□
		B 書くこと	□
		C 読むこと	□
評価の観点		知識・技能	□
		思考・判断・表現	□
問題形式		選択式	□
		短答式	□
		記述式	□

問題番号	出題の趣旨	結果
1二	論理の展開などに注意して聞く	○
2二①	文脈に即して漢字を正しく書く	▲
3一	表現の技法について理解する	▲

数学全体 おおむねできている

分類	区分	結果
学習指導要領の領域	A 数と式	<input type="checkbox"/>
	B 図形	<input type="checkbox"/>
	C 関数	<input type="checkbox"/>
	D データの活用	<input type="radio"/>
評価の観点	知識・技能	<input type="checkbox"/>
	思考・判断・表現	<input type="checkbox"/>
問題形式	選択式	<input type="checkbox"/>
	短答式	<input type="checkbox"/>
	記述式	<input type="checkbox"/>

問題番号	出題の趣旨	結果
1	自然数を素数の積で表すことができる	<input type="radio"/>
2	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	<input type="radio"/>
6 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	<input type="radio"/>
7 (1)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	<input type="radio"/>
7 (2)	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	<input checked="" type="radio"/>

理科全体 おおむねできている

分類	区分	結果
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	<input type="checkbox"/>
	「粒子」を柱とする領域	<input type="checkbox"/>
	「生命」を柱とする領域	<input type="checkbox"/>
	「地球」を柱とする領域	<input type="checkbox"/>
評価の観点	知識・技能	<input type="checkbox"/>
	思考・判断・表現	<input type="checkbox"/>
問題形式	選択式	<input type="checkbox"/>
	短答式	<input type="checkbox"/>
	記述式	<input type="checkbox"/>

問題番号	出題の趣旨	結果
1 (1)	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	<input checked="" type="radio"/>
7 (1)	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	<input type="radio"/>

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

児童・生徒質問紙（小・中学校）：調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施しました。安城市の結果データをもとに全国と比較し、よいと思われる回答と、課題があると思われる回答を以下に示します。

<小学校6年生（質問紙調査の結果）>

【全国比でよいと思われる回答】

ICTを活用した学習状況

→ 自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をよく使用している児童が多い。

学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数）

→ 言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題に対し、途中であきらめることなく最後まで解答を書こうと努力する児童が多い。

【全国比で課題があると思われる回答】

学習習慣、学習環境等

→ 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童が全国比で低い。

学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語) (理科)

→ 「国語の勉強が好き」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた児童が全国比で低い。

→ 「理科の勉強が好き」、「学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」と答えた児童が全国比で低い。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

→ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童が全国比で低い。

<中学校3年生（質問紙調査の結果）>

【全国比でよいと思われる回答】

ICTを活用した学習状況

→ 授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をよく使用している生徒が多い。

学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学）

→ 数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えることができる生徒が多い。

【全国比で課題があると思われる回答】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳 → 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒が全国比で低い。
基本的生活習慣等 → 普段、1日2時間以上テレビゲーム（スマートフォン等のゲームを含む）をしている生徒が全国比で高い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）（理科） → 「国語の勉強が好き」と答えた生徒や、「国語の勉強は大切だと思う」と回答した生徒が全国比で低い。 → 「理科の勉強が好き」と答えた生徒や、「学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と回答した生徒が全国比で低い。

4 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係から

質問紙調査結果と平均正答率の相関関係について、正答率が高い層にみられる傾向を以下に記載した。

<小学校6年生（正答率が高い層にみられる傾向）>

基本的生活習慣等	朝食を毎日食べている児童が多い。
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童が多い。
	毎日、同じくらいの時刻に起きている児童が多い。
学習習慣、学習環境等	家で自分で計画を立てて勉強している児童が多い。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していた児童が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	国語の授業の内容はよく分かると回答した児童が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数）	算数の授業の内容はよく分かると回答した児童が多い。
	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童が多い。
	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した児童が多い。
	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えると回答した児童が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）	理科の授業の内容はよく分かると回答した児童が多い。
	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると回答した児童が多い。

<中学校3年生（正答率が高い層にみられる傾向）>

学習習慣、学習環境等	<p>普段、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする時間は、1日当たり1時間以内と回答した生徒が多い。</p> <p>家で自分で計画を立てて勉強している生徒が多い。</p>
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	<p>1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していた生徒が多い。</p> <p>学級の生徒との話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒が多い。</p>
学習に対する興味・関心や授業の理解度等 (国語)	<p>国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒が多い。</p>
学習に対する興味・関心や授業の理解度等 (数学)	<p>数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒が多い。</p> <p>数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した生徒が多い。</p>
学習に対する興味・関心や授業の理解度等 (理科)	<p>理科の授業の内容はよく分かると回答した生徒が多い。</p> <p>理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていると回答した生徒が多い。</p>

5 結果をもとにした安城市の傾向と今後の取り組み

各教科の正答率と質問紙調査の結果などから見えてきた安城市の傾向と今後の取り組みについて、各教科（国語、算数・理科）と質問紙調査でまとめた。

(1) 各教科の傾向と今後の取り組みについて<国語>

<p><小学校国語の傾向のまとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（P. 2より） 全体では、全国比で「おおむねできている」となった。特に「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」において「努力を要する」となった。問題別結果からは、特に「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の漢字の書き取り（録画、反省、親しむ）のすべての正答率が全国より下まわった。課題が見られた。 ・（P. 5より） 質問紙調査では、「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合が低いなど、授業への興味・関心や、自分の考えを表現することについて課題が見られた。 ・（P. 6より） 正答率が高い層に見られる傾向からは、国語の授業が「よく分かる」と回答した児童が、正答率が高い層に見られた。 <p><中学校国語の傾向のまとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（P. 3より） 全体では、全国比で「おおむねできている」となった。問題別結果からは、文脈に即して漢字を正しく書くことや、表現の技法について理解することなどに課題が見られた。 ・（P. 6より） 質問紙調査では、国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等に関して「国語の勉強が好き」と回答した生徒が全国比で低いなど、国語学習への意欲や学んだことを活用しようとすることに課題が見られた。 ・（P. 7） 正答率が高い層に見られる傾向からは、国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等の高い生徒が、正答率が高い層に見られた。
--

今後の取り組み

<小学校国語>

- ・「好きだ」「分かる」など、学ぶ意欲を向上させる授業展開をし、国語に意欲的に取り組む児童を目指していく。
- ・授業の中では、考えを広げていく学習活動を推進し、「書いてまとめる」ことや「漢字を活用していく」ことなど、各教科においても言語活動の充実を図る。

<中学校国語>

- ・日常の学習や生活の中でも、漢字の意味や用法を確認し、漢字を正しく読んだり書いたりする態度を養う。
- ・取り上げようとする語句について他の適切な表現がないかを考えたり、複数の語句を比べてどれが最もふさわしい表現かを考えたりする。

(2) 各教科の傾向と今後の取り組みについて<算数・数学>

<小学校算数の傾向のまとめ>

- ・(P. 2より) 全体では、全国比で「おおむねできている」となった。問題別結果からは、示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由や、数量が比例関係にあることを用いて、未知の数量の求め方を記述することの正答率が全国比で高かったが、最小公倍数や百分率に課題が見られた。
- ・(P. 5より) 質問紙調査では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題に対し、途中であきらめることなく最後まで解答を書こうと努力する児童が全国比で高かった。
- ・(P. 6より) 正答率が高い層に見られる傾向からは、算数の授業が「よく分かる」「普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童が正答率の高い層に見られた。また、「あきらめずにいろいろな方法を考える」「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と回答をした児童が正答率の高い層に見られた。

<中学校数学の傾向のまとめ>

- ・(P. 4より) 全体では、全国比で「おおむねできている」となった。問題別結果からは、図から分布の特徴を読み取る問題の正答率が全国比で高かった。
- ・(P. 5より) 質問紙調査では、問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えることができる生徒が全国比で高かった。
- ・(P. 7より) 正答率が高い層に見られる傾向からは、数学の授業が「よく分かる」「あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答をした児童が、正答率の高い層に見られた。

今後の取り組み

<小学校算数>

- ・「好きだ」「分かる」など、学ぶ意欲を向上させる授業展開をし、算数に意欲的に取り組む児童を目指していく。
- ・割合については、日常の具体的な場面に対応させながら理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりするような学習活動を進めていく。

<中学校数学>

- ・「分かる」「あきらめずに考える」など、今ある学習意欲を大切にしながら、数学に意欲的に取り組む生徒を目指していく。
- ・授業の中では、問題場面における考察の対象を明確にとらえたり、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりできるような学習活動を進めていく。

(3) 各教科の傾向と今後の取り組みについて<理科>

<小学校理科の傾向のまとめ>

- ・(P. 3より) 全体では、全国比で「やや劣っている」となった。問題別結果からは、観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述することや、器具の使い方に課題が見られた。
- ・(P. 5より) 質問紙調査では、「理科の勉強が好き」と回答した児童の割合が低いなど、授業への興味・関心や、自分の考えを表現することについて課題が見られた。
- ・(P. 6より) 正答率が高い層に見られる傾向からは、理科の授業が「よく分かる」「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答した児童が、正答率が高い層に見られた。

<中学校理科の傾向のまとめ>

- ・(P. 4より) 全体では、全国比で「おおむねできている」となった。問題別結果からは、静電気に関する知識及び技能を活用できるかの問題の正答率が全国比で高かった。
- ・(P. 6より) 質問紙調査では、「理科の勉強が好き」「学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と回答した児童の割合が低いなど、授業への興味・関心などについて課題が見られた。
- ・(P. 7より) 正答率が高い層に見られる傾向からは、理科の授業が「よく分かる」「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている」と回答した生徒が、正答率の高い層に見られた。

今後の取り組み

<小学校理科>

- ・「好きだ」「分かる」など、学ぶ意欲を向上させる授業展開をし、理科に意欲的に取り組む児童を目指していく。
- ・実験器具の使用法や必要性、先を見通した探究の進め方について、児童が理解しながら学習活動を進めていく。

<中学校理科>

- ・活用できる知識・技能を身に付けるために、科学的に探究する学習活動を進めていく。
- ・問題解決の力と自然を愛する心情や、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

(3) 質問紙調査から見られる傾向と今後の取り組みについて

< P. 6 基本的生活習慣等の傾向 >

小学校では、正答率が高い層に、「朝食を毎日食べる児童」が多く見られた。

< P. 5～6 学習習慣、学習環境等の傾向 >

小・中学校ともに、正答率が高い層に、「家で自分で計画を立てて勉強している」が多く見られた。ただし、小学校全体では、計画を立てて勉強する児童の割合が全国比で低かった。

< P. 4 ICTを活用した学習状況の傾向 >

小・中学校ともに、ICT機器を学習で使用していると感じている児童生徒が全国比で多く見られた。

< P. 5～7 主体的・対話的で深い学びの視点からの取組状況の傾向 >

小学校では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した児童の割合が全国比で低かった。

正答率が高い層に、小・中学校ともに「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表している」と回答した児童生徒が全国比で多く見られた。中学校では「学級の生徒との話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した生徒が全国比で多く見られた。

< P. 6 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の傾向 >

小学校では、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童の割合が全国比で低かった。

今後の取り組み

- ・自分で計画を立てる家庭学習の支援を意識しながら、規則正しい生活習慣を大切にしていける。
- ・各校のMyタブレットの学習利用が増えていることを生かし、有効に使った学習や、プログラミング教育を進めていく。
- ・課題に向けて主体的に取り組む、話し合いながら学んだことを生かしていく授業や、発表する活動を推進し、主体的・対話的な学びの充実を図る。
- ・自分で課題を立て学習活動に取り組んだり、意欲的に学び続けたりする授業を推奨していく。